

市民病院だより

認知症について

小城市民病院名誉院長

佐藤 彬

認知症について、以前、当院
脳神経外科の田淵医師が市民病
院だよりに書いておられます。

私も老健施設で、たくさんの認
知症の方を診て来て、家族の対
応が何よりも大切なことを痛感
しています。今回は、認知症と
の付き合い方について紹介しま
す。

認知症は病気です
・ぼけと認知症は違います
食事内容を忘れることがある
のがぼけで、食べたことを忘
れるのが認知症です
・年を取ると誰でも認知症にな
るわけではありません
・放置すると、進行して寝たき
りになったり、合併症で命に
かかわったりします

・病気だから、予防と治療があ
ります
・早期発見が大切です

**認知症の症状が出てから受診す
るまで平均2年かかっている**

認知症も早期発見と治療が重
要です。そして気付くのは医者
ではなく家族です。認知症を見
つけるコツを知って早く対応し
ましょう。

家族が認知症を見つけるには

最も多い症状は、「同じこと
を何度も言ったり聞いたりす
る」です。次に、物の名前が出
てこなくなる、以前はあった興
味、関心が無くなるなどです。
疑わしい時は「今、あなたは何
歳？」と聞いてください。(生
年月日は古い記憶ですから答え
られます)また、今日の年月日、
曜日を聞くのも良いでしょう。

決め手は、「最近どんなニュー
スがありましたか？」です。
半数は正確に答えきれず、4
割の人は認知症に特有の、繕い
や言い訳をします。

なるべく早く専門医へ

認知症の症状がある方の1割
は、手術や薬剤で劇的に治りま
す。

すべての認知症を治すことは
できませんが、塩酸ドネペジル
という薬に加えて、平成23年7
月から、さらに3つの薬が使い
えるようになったため、幸せに過
ごすことができる時間を長くす
ることが可能になりました。ま
ずは正しい診断を受けましょう。
なお当院には「物忘れ外来(田
淵医師)」がありますので、お
困りの方は早めにご相談くださ
い。



小児科だより

子どもの発育

こどもは、低年齢ほど急激
な発育をします。寝てばかり
だった赤ちゃんが、首がすわ
り、寝返りをして、お座り、
ハイハイ、つかまり立ち、一
人歩きができるようになって
いきます。また、こどもの呼
吸や脈の数、腎臓の働きなど
大人とはかなり違いますので、
こどもを観察する時や薬の量
には注意が必要です。

以下はおおよその目安です
ので、参考にしてください。

- ★身長 出生時50cm
1～1.5年で1.5倍、
5年で2倍
- ★体重 出生時3kg
4か月で2倍/1年で3倍
- ★呼吸の数 乳児30～40/
幼児24～40/学童20～30/
思春期12～16
- ★脈の数
3か月未満80～200/
3か月～2歳75～190
- ★腎臓の働き おしっこは、
1歳半頃からがまんするこ
とが可能となり、3歳頃に
完成します。

小児科が拡充しました

毎週木曜日の診療時間を
19時まで(受付は18時30分
まで)延長しています。

お知らせ

佐藤彬名誉院長の内科外来を
週2回に拡充しました。

木曜日午前中の肝臓外来は従来通り予約制ですが、新たに担当
する水曜日の午後は新患、旧患いずれも予約なしで診察します。

【問合せ】小城市民病院 ☎ 73・2161

ホームページ・アドレス <http://www.city.ogi.lg.jp/hospital/>